



〒247-0063 神奈川県鎌倉市梶原3-18-10

TEL:080-7968-0059

E-mail:lgjmakamura@nifty.com

HP:http://www.lovegreenjapan.org/

発行者 鈴木倫子 編集責任者 木村雅子

パンチカールの野菜市場が完成しました



(JICA ネパール事務所 松崎所長による市場入口のテープカット。)

6月20日、JICA 草の根協力事業で改築を進めていたパンチカール中心部の野菜市場が完工し、完成記念式典が行われました。当日はJICA ネパール事務所長、パンチカール市長をはじめ、関連機関の職員や各区長、IPM 農家など大勢の関係者が参集し、市場の完成を祝うと共に、改めて安全な野菜作りの意義や重要性を共有して農業の町パンチカールの発展を願いました。

地形の起伏に富むパンチカールでは場所による交通アクセスの差が大きく、山間部の農家は野菜の運搬やコスト面で遅れを取りがちになります。また平地部でも、天候などの影響で遠方への輸送・販売が困難になることがあります。地元での市場開設にはそうした問題への対応や、地産地消の促進、外部の客をパンチカールに呼び込もうという目的があります。

運営は市が行いますが、ここが安心安全野菜の販売と情報発信の拠点として活用されるようサポートします。



「ネパール国都市近郊農村における IPM 農産物の出荷と販売の仕組み作りを通じた農業活性化」 (JICA 草の根協力事業)

事業開始から早 2 年。本事業で新たに IPM 農法ファーマーズフィールドスクールに参加した農家は 90 名を超え、安心・安全な野菜作りに取り組む農家の裾野は着実に広がっています。

また事業では、技術指導とともに、グループでのマーケティング活動が促進されるように定期的なグループ会合なども行っています。農家はみんなで話し合いながら販売先や販売方法を決めるなど試行錯誤を重ねています。私たちはその裏側で、新たな販売先やマーケット情報の提供、新種野菜の栽培支援、マーケティングにかかる各種助言などの後押しを続けています。

能力強化の取り組み

農家による野菜の生産・販売活動がより効果的に進むよう、各種能力構築研修や実習も取り入れ実施しています。



(上：甲斐田専門家による農家のジェンダー研修。
ワークは夫婦で話し合いながら行われる。)
(右：ローカルスタッフによるジェンダー研修。)

2月、甲斐田きよみ専門家を招いてジェンダー研修を行いました。夫婦での参加を依頼し、一方だけが権限を持つのではなく、共働することがいかに一家の生産性を上げるかということが、実例を交えて解説されました。その後、年間収支を夫婦で書き出すワーク（誰が支出を決めて誰のために使っているかなど）も行われました。



「家計の収支なんて初めて見直した」という参加者が多く、興味を持ってもらえた様子でした。ジェンダー研修はラブグリーンのスタッフに対して別途、2日間の日程で実施されました。農家への研修はノウハウを引き継いだローカルスタッフが継続しています。



その他、従来出荷の際に行われてこなかった、虫食い・傷などダメージがある野菜の選別や、出来に応じたグレーディング、見栄え良く買いやすくするパッケージング、運搬時に野菜を保護するための包装など、商品として販売効果を上げるための実習や、カトマンズ中心部の市場見学ツアーなど、農家のモチベーションアップも考慮しながらマーケティング促進につながる研修、実習を行っています。

6月、農業省傘下の残留農薬分析ラボのスタッフがパンチカールを訪れ、15種のIPM農産物のチェックが行われました。結果は全て、安全基準よりもかなり低い数値で合格。「パンチカールの野菜は安全」。過去の風評が未だに残る中、このニュースがラブグリーンズの活動とともにネパール国内の新聞やネットなど、複数のメディアで拡散されました！



「地域住民のための共有林づくり」（緑の募金事業）

昨年7月より実施している本事業は、子どもたちから森に関心を持ってもらおうと、これまでとは少し違う森林に特化した環境教育に取り組んでいます。

12月に、初めてボクセコミュニティフォレストに隣接するドウゲンショール小中学校の生徒有志20名を対象として、コミュニティフォレスト利用者委員会の人と一緒に森を歩く体験学習を行いました。生徒たちをチームに分けて、森の中にある木の葉や花などを拾ったり、生き物を写真に撮ったりしながら、自然のものの集めゲームをしながら40分程度の散策をしました。そのあと、集めたもの、植物の名前などを調べましたが、分からないものもたくさんありました。「隣の森なのに、何にも知らなかった」という声が上がりました。



こうした活動を積み重ねて、森の面白さに気づく人たちが出てくることを期待しています。

「ネパールパンチカール市ラウキニコミュニティフォレストにおける住民参加型植生調査と利用促進環境整備事業」（りそな環境助成）*新規事業

ネパール・パンチカール市のラウキニ・コミュニティフォレストを対象に、森を「使われる森」として守り、次世代につなぐ活動を進めています。

1年目は「試行・基礎固め」の段階として、住民参加型の植生調査、間伐や下草刈り、植林などを行いました。特に、初めての試みとなった植生調査は参加者の反応が良く、見学に来る人もいて、地域の関心が高まってきている手ごたえを感じました。また、果樹の植林や散策路づくりを通じて「森を利用することが収入や生活の豊かさにつながる」ことを体感してもらいながら、持続的な森林管理の仕組みづくりを進めています。



2年目は「広げる・深める」の段階として、これまでの成果を定着させつつ、参加者層を拡大していきます。子ども向けの環境教育や体験活動も取り入れながら、森を身近に感じられる取り組みを進めていきます。

ネパール人スタッフ来日報告



7月、当団体の現地職員ビマル・デュラルを日本に招き、約3週間の研修を実施しました。

最初に私たちのサポーターでもある鎌倉のNPO法人「山崎・谷戸の会」を訪れ、市民活動による里山保全の現場を実際に見て、地域に根ざした取り組みの力強さを感じてもらいました。また、多摩森林科学園でガイドウォークを体験しました。専門家の案内のもとで森に親しむ時間、科学館の展示は教育活動に活かせる多くの示唆を与えてくれました。



研修の主目的は、有機農産物が生産から販売に至るまでの一連の流れを学ぶことでした。「かごしま有機生産組合」に受け入れていただき、鹿児島で生産者の畑、自社農場、出荷作業を見学して、関わる人々から直接話を聞かせていただきました。自社店舗「地球畑」やスーパーマーケット、道の駅など販売の現場も訪問しました。また農家を交えた作付け会議も見学させていただきました。一人一人の生産者に寄り添う組合の方々の姿勢や、生産者・販売者が共に信念を持って有機農産物に向き合う熱意に深い感銘を受けていました。

ビマルにとっては初めての日本。どこへ行っても豊かにモノがあふれ、多彩な品々に目を見張っていました。日本食にもすぐ馴染み、どの料理も美味しく味わっていたようです。とりわけ真夏の暑さの中で食べたかき氷、そしてミルクと果物をたっぷり使った鹿児島名物「白熊」は格別の思い出になったようです。



Learning Experience from Japan Visit.

Bimal Dulal

During my 19-day visit to Japan, I explored agricultural production, marketing systems, and environmental conservation. Staying with a Japanese family allowed me to experience their hospitality. I enjoyed various Japanese foods, and unique activities such as a sand bath, ferry ride, and enjoy the view of the sea for the first time.

A major highlight was a six-day training organized by the **Kagoshima Organic Farmer Association (KOFA)**. Farmers followed clear cropping plans, maintained quality standards, and marketed products through wholesale outlets, Chikubatake restaurant, and processing facilities.



KOFA staff regularly monitored crops and supported farmers through agreements on production and pricing.

At farmer meetings, challenges like climate change, labor shortages, inflation, transportation, and wild animal damage were discussed. Issues were categorized at farmer, organizational, and government levels with solutions proposed. KOFA emphasized principles of **Business-to-Business, Business-to-Customer, and E-commerce.**

The meeting with KOFA focused on the importance of cold chains, warehouses, and efficient logistics will help to enhance the efficient marketing in Nepal. KOFA encouraged me to "Do action with principle and never stop thinking."

Japanese farmers showed strong commitment to record-keeping for **JAS certification**, youth involvement, and adoption of modern machinery and technologies. I also observed the usefulness of **Michi-no-Ekis**, local outlets promoting regional products.



Beyond agriculture, I joined a mothers' group testing Miso paste. I found this to be a creative way of doing group work & sharing the experiences. Another special moment was my visit to **Yamasaki Yatonokhai**, where I met with the group of the late Aikawa-san and learned about the volunteer participation in nature conservation. Moreover, I got chance to visit **Tama Forest Science Garden** where I learnt about forest related activities including guide walk and visited the **JICA Yokohama office**.

訪問先の皆様、来日にあたりお世話になった皆様、ご協力いただき本当にありがとうございました。研修の成果は今後、ネパールでの活動に活かしてまいります。

* 農業×栄養 新たな分野に取り組みます。*

「自家製栄養パウダーを用いた栄養ドリンクによる、
5歳以上の子どもの食の改善」
(公益財団法人味の素ファンデーション 2025年4月～2028年3月予定)

4月から初めての取り組みとなる栄養改善の活動を進めています。

ネパールでは近年5歳未満の栄養・保健対策が強化されており、成果を上げてきていますが、未だ25%が発育不良の状態、そのまま5歳以上への対応は手薄になっています。食生活では即席麺やスナックの消費増大、野菜離れなどが進み、ただでさえ塩分、油、炭水化物過多が懸念される中、栄養バランスの乱れと健康への影響が危惧されています。

事業ではパンチカール第1区に住む5歳以上の低体重・低成長の子どもを対象に、キッチンガーデンで自家栽培できる栄養豊富な作物を乾燥・製粉した「自家製栄養パウダー」と、家畜のミルクを使ったドリンクなどを日常の食生活に取り入れることで、子どもが摂取する栄養バランスを改善し適切な成長を促すことを目指します。

活動は、栄養パウダー作りの指導・食生活への導入と、母親グループ・子どもを中心とした栄養教室による栄養知識の底上げを2本柱として進めます。

手探り状態の実施ですが、日本の栄養士資格を持つミナ・シャキヤ専門家のご協力と、ラブグリーンの豊富な作物栽培指導の経験を活かして、活動の幅を広げていければと考えています。



インターン報告

2025年2月、国際基督教大学教養学部アーツサイエンス学科4年生の森桃子さんをインターンとして受け入れました。1ヶ月の活動を通じた森さんの気づきです。

私が滞在を通して気づいたことは、1) 開発援助の現実、2) 幸福の多様性、3) 自分の将来実現したいビジョン、の3点です。

まず、私はこれまで大学で開発学に関わる授業の受講や、インドでボランティアをした経験があったのですが、開発援助の実態があまりわかりませんでした。具体的に言うと、「開発援助」では日本国の税金やNPOやNGOに対して誰かが寄付したお金が途上国に行き渡るのですが、そのお金が実際にどう使われていて、どのような成果を上げているのかは知りませんでした。しかし、今回の滞在中で、ラググリーン職員の方々やJICA、青年海外協力隊員の方々と行動を共にする中で、ネパールの中で開発援助という名の下で拠出されているお金の使われ方を知ることができました。私はこれまで本やメディアを通じた情報から開発のイメージを勝手に描いていたのですが、必ずしもそこは一致しない開発援助の現実を目の当たりにできたのは、私の理解を一層深めることにつながったと思います。

また、今回の滞在中で幸福の形は多様であることを身近に感じることができました。私はネパールの農村部に5日間ファームステイをし、農作業や村の生活様式を体験しました。農村部の女性は基本的に専業主婦として、農作業や家事に従事していることが多く、私は彼女たちに対して「大変そうだな」という印象を持っていました。ですが、ある1人の女性に話を聞く中で、家族のために働くことは苦ではなく、むしろ幸せだ、という考え方があることを知りました。東京で現役の大学生として生活していると、仕事でキャリアを積むことだけが幸せであるように思い込みがちですが、そうではない幸せの形もあるのかもしれないと考えるようになりました。

そして最後に、私は今回の経験の中で自分が今後の人生で掲げたいビジョンを見つけることができました。それは、日本と海外といったように、国と国をつないでいきたいということです。滞在中で、文化の違いに遭遇することはありましたが、それ以上に住む国や母国語は異なっても、心が通じ合えたかもしれない、と感じるときはありました。私にとっては、おそらく国を超えてつながるといことがとても大事であり、これからの大切なしていきたいことなのだと思います。国と国をつなげるための手段として、開発やビジネス、文化交流や教育など様々な選択肢がありますが、自分にとってはどの分野が合っているのかをこれからの学生生活で見つけていきたいです。(森 桃子)



(ファームステイ先の家族のお一人と。)



インターンのご希望がありましたらお気軽にお問い合わせください。



2024年10月～2025年9月の動き

2024年10月	22日	開智国際大学「国際協力論/SDG 特論」にて活動紹介
2024年11月	12日-12月20日	鈴木倫子 ネパール事務所駐在
	21日	上智大学「南アジア研究概説」にて活動紹介
2025年1月	18日-3月1日	木村雅子 ネパール事務所駐在
2025年2月	1日-28日	大学生インターン 現地受け入れ
	20日-4月8日	鈴木倫子 ネパール駐在
	24日-3月3日	文京学院大学 甲斐田きよみ専門家によるジェンダー研修の実施
2025年3月	22日-29日	名古屋大学 伊藤香純准教授によるコミュニティフォレストに関する現地調査受け入れ
2025年4月		味の素ファンデーションAIN プログラム「自家製栄養パウダーを用いた栄養ドリンクによる、5歳以上の子どもの食の改善」開始
		りそな環境助成「パンチカール市ラウキニコミュニティフォレストにおける住民参加型植生調査と利用促進環境整備事業」開始
	24日-6月28日	木村雅子 ネパール事務所駐在
2025年6月	20日	パンチカール市ローカル市場完成記念式典開催
2025年7月		緑の募金事業「地域住民のための共有林づくり」2年目開始
	3日	りそなアジア・オセアニア財団主催「第7回環境事業ワークショップ」参加
	12-30日	現地スタッフビマル・デュラル来日研修
2025年8月	1-3日	JICA 教師海外研修 ホームステイ、活動地訪問受け入れ
	5日-9月22日	鈴木倫子 ネパール事務所駐在
2025年9月	27-28日	「グローバルフェスタ JAPAN 2025」出展

■ 世界環境デー活動報告

6月5日、今年の世界環境デーではパンチカールのコミュニティフォレストで植林を行いました。早朝からコミュニティフォレストを利用する村人たちが集まり、ラブグリーンスタッフと一緒にイチヨウやヒノキ、果樹など合計145本の苗木を植えました。(本活動は緑の募金事業の一環として行いました。)



■ JICA 教師海外研修受け入れ

8月上旬、今年も中部地方から9名の先生が来訪され、農家に取り組む循環型農業の見学と、日本の支援で整備した幹線路沿いの村パトレケットでのホームステイを体験されました。ネパール人に倣って手で食べてみたり、ネパールの台所で料理をしたり、一緒に虫の音に耳を傾けたり。先生方がネパールの暮らしから直に見聞きし感じられたことは、ご帰国後、授業で生徒さんたちに伝えられます。



当会の日常的な活動は
Facebook<ラブグリーンジャパン>をご覧ください。

令和6年度 会費納入・募金ありがとうございました。

(2024年10月1日～2025年9月30日)

(※順不同、敬称略)

和泉田 初代/海老澤 健/太田 輝/黒川 敏史/田岡 耕司/坂本 洋子/高柳 紘子/
中澤 正子/土岐 操/淡中 篤・京子/長谷川 潤/宮原 靖代/飯田 よし江/三井 良子/
三田 健一・悦子/本間ピアノ/草野 明子/吉井 万里子/崎坂 香屋子/中澤 庸眞/
小野 文子/睦好 正治・絵美子/蛭名 喜代作/西村 充弘/坂元 房枝/三間 韶子/
大津 泰子/望月 よし江/矢澤 智美/宇田川 榕一郎・エリ子/隅田 一明/福田 克美/
山下 恵子/鈴木 勝雄・芳子/鈴木 開・統眞/相川 明子/気賀沢 忠文/ナカザワ
包材(株)/タックインターナショナル

他：匿名希望の方 御礼申し上げます。

※イベントなどお手伝いいただいた方々、ありがとうございました。

昨年度は会費納入をお忘れの方がいらっしやいました。

年に一度の会報でお知らせしております。

どうぞ、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

皆さまのご支援によって、私たちの活動は継続されます。

1口 5,000円 1口以上をお願いいたします。

ご住所、お名前、電話番号、口数を記入して下記へお振込みください。

振込先 (郵便振替) 00250-3-76570

(銀行振込) 三井住友銀行 日比谷支店 普通 8044951

特定非営利活動法人 ラブグリーンジャパン

ご意見や感想なども事務局へお送りください

編集後記

会報を発行するこの時期、例年であればネパールはヒンドゥー教最大のお祭り「ダサイ
ン」を前に、人々はお祭りモードに包まれているはずでした。しかし今年は、9月8日に起
きたZ世代による政府腐敗への抗議デモが暴動へと発展し、日常は一変しました。多くの死
傷者が出て、歴史的建造物も破壊され、その喪失の大きさに深い悲しみを覚えます。

ネパールでは抗議デモ自体は珍しくありませんが、今回のように大規模な混乱に発展
し、日常があっという間に崩れてしまうことに改めて驚かされました。一日も早く、いつ
もの穏やかな暮らしが戻ることを願ってやみません。

SUZ